

中心市街地の活性化 名鉄牛田駅前整備



市議会
川合 正彦 議員

問 中心市街地の都市機能再生と駅機能の最大限活用を軸に、知立駅周辺整備事業を見直すべき。全体計画の見直し作業の現状と今後の予定は。

答 歩行者優先とし、住民要求のないものは、長期に目途のたないものは見直す。24年度素案を公表し協議会を設置。**問** 駅周辺区画整理事業は事業規模縮小、歳出の削減を。また、駅南地区の再区画整理事業は課題が多いが、知立南北線の整備を優先すべき。**答** 見直しの重点地区と理解しており検討する。

問 知立駅開設100年を間近に、今日まで発展した知立の街並み、鉄道、駅舎等を対象にした写真等を公募し市民参加に



牛田駅南側

つながる事業の開催を。

答 事業への関心、市民意識の向上にも有効。なくなっていくものを残す事も大切。

問 三河線豊田方面の複線化は有益であり今後の対応は。

答 鉄道高架事業区間外は、現時点協議の対象外である。

問 名鉄牛田駅の年間利用者数は130万人。南側道路の交通安全対策と、駅前公園の防犯対策の強化を。

答 牛田駅南口の土地利用状況から、大掛かりな整備は今のところ難しいが、今後検討したい。

防災対策 地域活性化について



公明党
明石 博門 議員

問 災害発生時、市民へ迅速な行政サービスを提供する、「被災者支援システム」の運用をどう考えているか。

答 操作方法を検討中で24年度運用に向け準備をする。

問 災害時要援護者支援制度の未登録者が、489人と登録申

請が進んでいない。その要因と、今後の対応策は。

答 「障がい者と見られたくない」との思いもある。今後、粘り強く説明していく。

問 山屋敷町内の生活道路は狭く、緊急車両がすれ違いできない。道路整備の考え方は。

答 地元の意向、協力が最重要となる。

問 HUGを使用して、いざという時の対応、避難所運営の難しさを学んでみては。

答 検討を重ね実施を考えて



HUG

いきたい。

問 定住自立圏で検討項目の刈谷市とのミニバスを相互乗り入れる案の進捗状況は。

答 具体的には進んでいない。

問 東京大学ものづくり経営研究センター(MMRC)の指導のもと、大手企業退職の管理職経験者によって、中小企業の現場改善指導が行なわれ、成果を挙げている企業がある。研究されてはどうか。

答 知立市も学ぶところがあ

※ HUG 見取図とカードを使っでの避難所運営の模擬体験型訓練